

1971年4月3日 第3種郵便物認可

2007年10月25日発行(毎月1日25日発行)第48巻 第10号(新巻515号)

OCTOBER.2007

消費科学会誌

CODEN:SESTDH 48(10):730(2007)
ISSN 0037-2072

繊維製品

消費科学

JOURNAL OF THE JAPAN RESEARCH ASSOCIATION FOR TEXTILE END-USES

10
Vol.48



設 日本繊維製品消費科学会

THE JAPAN RESEARCH ASSOCIATION FOR TEXTILE END-USES

<http://homepage3.nifty.com/shotikagaku/>

「洋服のリフォーム」の現状と今後の課題

株ツクダ・クロス・スタイル

<http://www.e-tsukuda.com/>

佃 由紀子

1. 洋服のお直し・リフォームとは どんなことをしてくれるのか？

「洋服の直し」「お直し」「リフォーム」という看板を見て、そこで受けることのできるサービスを具体的に思い浮かべられる方がどれだけいらっしゃるでしょう？

(1) 取り扱いアイテム（商品）

取り扱いアイテムは、「ミシンで仕上げられているものならば何でも」とお考えいただいてもよいと思います。本縫い（直線）ミシン、ロックミシン（生地のはつれ止め）、スクイミシン（まつり縫い）が基本となります。

製造工場では、様々な特殊ミシンが稼働しています。例えば、「右袖つけ」の作業なら、「右袖つけだけ」をする機械。担当者は、布をその機械にセットするだけ。機械が仕事をします。担当者は、機械が「プログラムされた仕事」をきれいにやっているかどうかを見ていけばいいのです。

この場合、この担当者には、「その機械を操作する技術」が身に付きますが、「身頃に袖をきれいに付ける技術」は身

に付きません。

お客様の持込商品に対する調整加工を主たる仕事とする現場では、その逆のことを行います。あらゆる部分の調整を、本縫いミシンを使って行います。担当者側には、「よりきれいに！」「調整しながら縫う！」という技術が必要になります。特殊加工などの機械が必要な仕上げの場合は、「代わりにこのような仕上げならばできますが、いかがですか？」などの代替提案をさせていただきます。

対応が困難ものは、生地が硬く厚いものや、特殊ミシンでなければできないようなステッチが施されている場合です。判断に迷われるときは、とりあえずご相談されることをお勧めします。

(2) サービス内容

サービス内容としては、当社では、よりご理解いただきやすいように、下記の通り3つに分類することにしました。

〈お直し〉

- ・破れ・痛みなどの補修
- ・3センチ程度のサイズ直し

〈リフォーム〉

- ・4センチ以上のサイズ直し
- ・全体的なサイズ変更

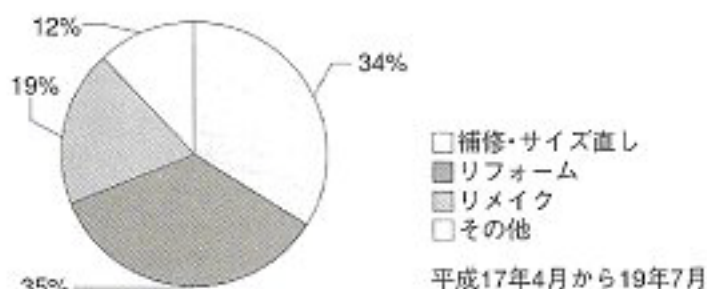


図1 HPお問い合わせ内容内訳

〈リメイク・オーダー〉

- ・デザイン変更
- ・着物から洋服の制作
- ・イベント衣装制作
- ・オーダー服の制作

〈お直し〉とは、調整加工部分のみ触ればよいものをさし、全体的なシルエットに影響を及ぼさない程度の調整となります。

〈リフォーム〉は、調整分量が多い場合や、全体的に調整をかけるものをさします。この調整は、元々のシルエットに影響を与える内容のものとなるため、個々の調整箇所の内容確認とともに、その集大成となる全体のシルエットをご理解いただき、望む仕上がり状態が反映されているかどうかを再確認していただく必要があるものです。

〈リメイク・オーダー〉は、2着から1着の服を制作したり、紳士服を婦人服に作り変えたり、イベント衣装をお作りしたり、オーダー服制作を受けたりと、多岐にわたります。

当社のHP上に寄せられたお問い合わせ内容314件（平成17年4月から19年7月）を分析したところ、図1のような結果を

得ました。

「補修」、「リフォーム」に関するお問い合わせがそれぞれ109、「リメイク・オーダー」59、「その他」37でした。「その他」の中には、採用に関するもののほかに、「染め直しに関する相談」「他社での苦情に関する相談」「直し方の相談」「信頼できるお店を紹介してほしい」などでした。

2. 当社の状況

当社は、このような「洋服のお直し・リフォーム」のサービスを昭和58年から提供しています。ショッピングセンター内に加工場をもち、「新品商品＝販売時に付帯するサイズ直し」「一般の方の持込の商品に対する技術提供」を行っております。

図2は、当社の店舗の過去5～9年間の「一般の方の持込の商品に対する技術提供」のお取り扱い（売上ベース）量を表したものです。全体として、年々増加傾向にあるといえます。

図3は、その内訳を月ごとの変動で表したものです。主に、季節の変わり目、衣替えの時期に増加が見られ、「暑い盛り」「寒い盛り」の頃に落ち込みを迎え

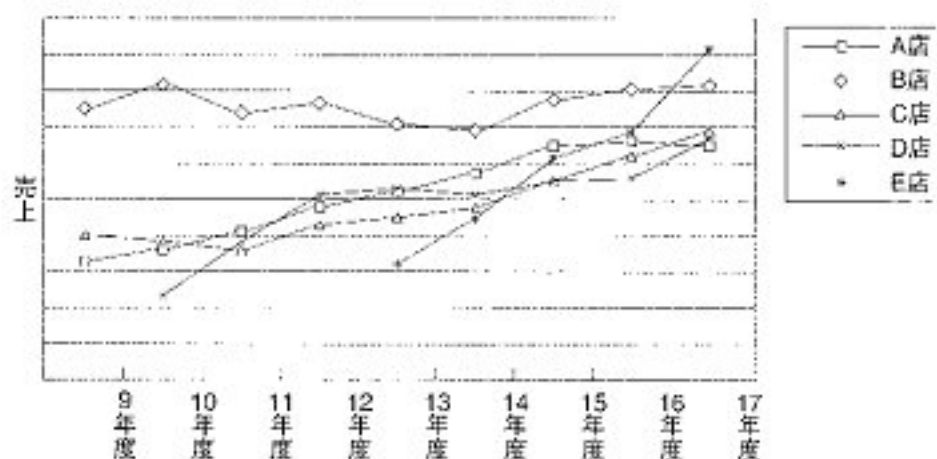


図2 リフォーム年間売り上げ推移

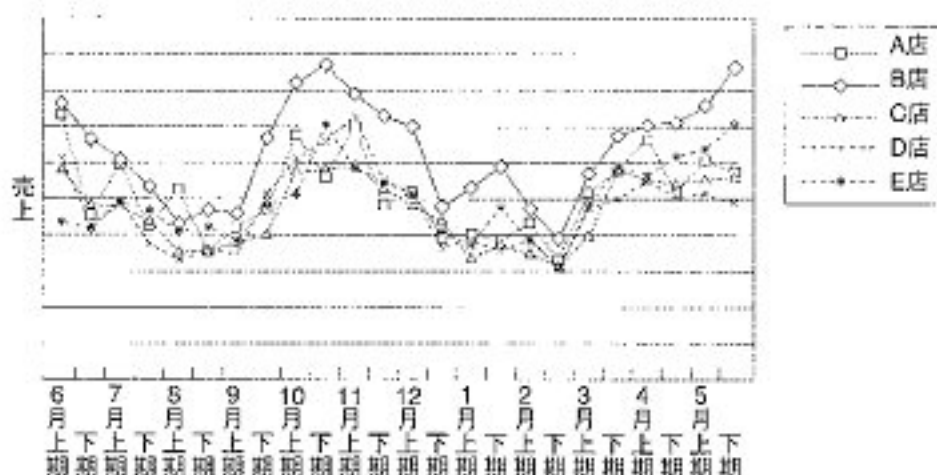


図3 リフォーム売り上げ月別推移
(平成13~17年 5年間平均値)

ています。

3. ユニバーサルファッション

新品商品（販売品）に対する加工と、お持込商品に対する加工を行ってきましたが、それらの商品が、限られた一部の商品であることに気がつくこととなります。それは平成12年のことでした。

平成12年に、当社の創業者である前社長が肺がんで亡くなりました。病の発見

から3年の月日が経った時でした。

療養看護中は、正直なところ、様々なことに追われ、「病院生活・自宅療養をより楽しめるような洋服の改善」というところまでには至りませんでした。前社長が亡くなった後、改めて「最善の時間を提供することができただろうか？」と振り返りました。

そして、「私たちの仕事＝洋服のリフォームは、どのような環境・状況にある

方に対しても、人生を豊かに楽しんでいた
ただためのお手伝いができるのではない
か？」という思いが強くなりました。

それまでは、「店頭にご来店くださる
方＝自由にショッピングセンターにお越
しになれる方」が「お客様＝サービスご
利用対象者」だと、ずっと思っていました。
しかし、前社長が病を得たことで、「病院
生活を送る方々」や「寝たきりの生活の
方々」「周りでサポートする方々」など、
今まで気付くことのなかった人々の存
在を知ることになりました。

そのような時に、ユニバーサルファッ
ション協会（現在は、NPO法人）の存
在を知り、すぐに会員となりました。

当初は、「何らかの制限を得ている人
に対する洋服の工夫、もしくは、そのた
めの工夫をされた洋服」を「ユニバーサ
ルファッション」と捉えていました。し
かし、今は、「どのような環境・状況の
方でも、自由に自分の望む洋服を手に入
れることができる・選択することができる
システムやそれを可能にする洋服」を
「ユニバーサルファッション」と捉えて
います。

ファッションは、人を元気にすること
ができるとても重要なアイテムです。

「具合の悪い人は、具合の悪い人用の
洋服を着てください！」と言われたら、
ますます具合が悪くなりそうです。洋服
の中に、機能的に何か工夫があったほう
がよい場合はそれを入れつつも、最も大
切なのは、洋服を着る人の「気持ち・気
分がよくなること！」だと思います。そ
んな服作りのお手伝いできれば嬉しい
限りです。

4. 障害をもつということ

障害をもつ方の洋服について、注意を
払っている人はどれくらいいるのでしょ
う？ 自分には関係無い！と思っている
方もあるのではないのでしょうか？

障害をもつ、ということは、「生まれ
たときから」とは限りません。病気や事
故など、すべての人にありえるものです。
そして、その症状は、個人によって千
差万別です。そのため、既製服による対
応は、困難です。

現状としては、当事者の身近な方が既
製服に対して個々に工夫を施されている、
ということが多いものと思われま

す。「ご相談いただければ！」という思
いで一杯です。洋服のお直し・リフォーム
の技術者は、様々な事例を経験してい
ます。きっとお役に立てる情報や技術
をお渡しすることができるでしょう。

一番の問題は、ご本人・ご親族・医療
関係者・福祉関係者の方々の、洋服に
対する意識が低いことだと思います。国
立障害者リハビリセンターに見学に行
った際にも、それを感じました。

「衣・食・住」と言いますが、現実問
題としては、「生命の維持・生活の訓練」
が優先順位として上位にきます。そし
て、「衣服」については、「着やすい（着
せやすい）ものであればいい」というレ
ベルで止まっているようでした（「着
やすい」「着せやすい」は、状況・状
態によるものと思います。優劣の判断
は、特にありません）。

「着やすい（着せやすい）もの」の
次に、「ご本人らしいもの」「気分が
明るく